

---

## 1. 「考える力」

---

大阪商業大学 学長 谷岡 一郎

電車に乗っていて目立つのは、スマホをいじくり続ける、あるいは画面をずっと見ている人々です。もう珍しくもなく、世相のひとつになっているようです。電車内の各自の時間をどう使おうと、個人の自由の範疇ですから別に構わないのですが、彼（女）らは混雑時の乗り降りや、人の行きかう通路でも、画面を見続けています。注意力散漫になって危ない上に、他人への必要な気くばりもできない人間を増やすだけの結果になるでしょう。目にもよくない（ドライアイ症状）ものと思われまます。

この人々は、これからずっと誰かが発信しているコンテンツに頼って生きていくのでしょうか。本人たちは放つといてくれと言うのかも知れませんが、これからの日本社会に出る若者たちの素養を考えると、少々悲しいことのように思えます。

私が入学式で新入生に必ず言うことがあります。それはこんな内容です、「あなた方はずっと誰かが発信している情報を見たり、アプリを利用し続ける立場にいるつもりでしょうか。それとも自分で何かを発信する側に廻りたいのでしょうか」と。多くの新入生はここで「はっ」と顔を上げ、訴え掛けるかのように私の方を見ます。これからの学びの大切さを意識したのでしょうか。それとも別の何かを思いついたのでしょうか。

先日、高校生による起業アイデアを競うコンテスト、「ビジネス・アイデア甲子園」の審査がありました。そこに出てきたファイナリストたちは、顔つきからして何となく違うような気がしました。23回目を数えるこのコンテストの最も重要な点は、おそらく「自分の頭で考える」ことを学んだことでしょう。彼（女）らのプレゼンテーションには、自分たちの独自性をアピールするための工夫が見てとれました。嬉しい限りですなあ。

アイデアは第一歩にすぎず、実現可能なプロセスに持っていくには、またさらなるパワーが必要なのですが、まずは答を（機械などを利用して）探すのではなく、「自分で考えることができる人間」の育成が必要な時代になっているようです。これからの社会が求めるのは、こうした考える力を持った人間なのだと感じた次第です。私の話を聞いた新入生たちが何かに気づき、そして世に出て自分で考え判断できるリーダーとなってくれること、それが

今の私の生きがいでもあります。

どんなに社会が進んでも、重要な決断ほど、人間の思考とリーダーシップが不可欠であることは間違いはないはずです。マニュアルや、AIによってカバーできる仕事には、限界があるからです。その点で、今ほど起業教育のプログラムが必要とされている時代はないでしょう。別に起業でなくとも同じことです。たとえば過去に例のない災害に遭ったようなケースで、きちんと筋道を立てて考えられる人は必要です。「困った時に皆があなたの言葉を待つ」、そんな人を育てたいのです。

ここにこうして何年も続いている起業教育研究の報告書が新たに完成したこと、心よりお喜び申し上げます。編集や執筆に無償の労をとって下さった関係者の皆様に感謝申し上げます。